

---

# 眠り姫

抹茶小豆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

眠り姫

### 【Nコード】

N1862I

### 【作者名】

抹茶小豆

### 【あらすじ】

最後にオチがくるタイプのショートです。

さあ、あなたはどのへんでオチが読めましたか？

女の子はみんな、お姫様なのである。

それは、ある晴れた日の昼下がり。

姫は王子様を待ちぼうけ。

頭から布団を被り、ふて寝の真っ最中。

「ひどいわ。

時間に遅れるなんて」

姫は王子様に恋をしたのかもしれない。

それは、淡い恋。

咲き初めの花のような……。

普段なら、笑って許してあげられるのに。

なんでだろう？

なんで、だろ？

そして、気付く。

そうか、

私はあの人を待っていたんだ。

あの子の笑顔、

あの子の声を、

「はやく、いらして……」

やがて足音が聞こえ、姫の王子様が姿を現す。

王子様は、ふて寝の姫の耳元に低く囁く。

「姫、遅れて申し訳ありません」

それは、心を鷲掴みにするような美声。  
少し長めの前髪から覗く、端正な眉目。

あの人だ。

私の王子様……。

姫は猶も拗ねている。

ぷうと口を膨らませた瞬間……。

ガコッ

王子は苦笑する。

「姫、入れ歯が外れています。」

姫の名前は、山本梅子 九十二歳。

王子の名前は、速見 隆 二十三歳。

職業はホームヘルパー……2級なのであった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1862i/>

---

眠り姫

2010年12月9日04時43分発行